

「山になぜ登るのか?」の回答は「そこに山があるから」という単純なものでなく、各人それぞれの幾つか回答があるのではと思う。

その中に「普段と違った景色を見たりや非日常の状況に身を置けるから」もあると思う。今回の爺ヶ岳は当初、夜行で横浜を出て、暑いさなかに冷風を受けながら針ノ木雪渓を登って、立山・剣を見ながらのスカイラインを爺ヶ岳まで縦走する計画であり、応募者も 11 人と少なく開催があやぶまれたが、悪天の時に雪渓を登らせた時、針ノ木岳とスバリ岳の下りは難路であり、引き返す雪渓の下りも少ないリーダーでは手に余る事になってしまうので、朝立ちの柏原新道の往復に変えて、10名の参加者と出かけた。

冷風の針ノ木雪渓を登ると言う非日常の状況に身を置けなくなったが、行きのバスが高速道路走行中にタイヤがバーストするというトラブルが発生し、ガードレールの外で修理を待つと言う非日常の状況に身を置く事になってしまった。

そして街では冷房やエスカレーターや車・宅配便を使っている人達が、暑いさなかに荷物を持って急坂を登ると言う、非日常の状況に身を置く事に。

当然のごとく、不調者が次々と出て同行リーダーも不調者のザックを担ぎ続けると言うハメになってしまったがなんとか夕食前に小屋に着く事が出来た。

8/4 は宿泊定員を超えて予約を断っている種池山荘に無理にお願いして連泊させていただいたので、部屋は喫茶室であった。布団の上で足を伸ばすと足がぶつかる。寝返りを打つたびに足と足がぶつかるという最近ほとんどない経験をするハメに。人息で暑苦しく廊下で寝る事にしたが、夜中に朝立ちの準備する人達の音が気になった。

8/5 は鳴沢岳手前の新越山荘までの立山・剣を見ながら・写真を撮りながらの稜線山歩。高い参加費の元が取れ、自分の足で登ったご褒美かも、帰りはガスに追われて昨日の歩き始めた 1 時半には小屋に戻って生ビール。旨い! 下見の時はガスで足元しか見えず、寒くて飲む気にならなかった。

今晚の部屋は男女別々のゆったりスペース。昨日は寝不足だったので、夜中の雷鳴・豪雨も知らず寝ていた。

8/6 は朝、晴れ男と雨女がせめぎ合う間に爺ヶ岳へアタックしてから扇沢へ下山。バス配車依頼は 11 時でしたが、10 時頃には下山出来そう。バス会社と連絡を取るとバスは既に大町まで来ているとの事。扇沢でなく登山口で待ってもら。代車の中型バスは 1 人が 2 人分の席を使っても余るゆったり、10 時半には大町温泉へ。温泉につかってから昼食。(返金した弁当代で各自好きな物を注文)

早めの出発で、高速は渋滞発生前に通過し、高速料金をおさえるべく相模湖 IC であり、普段使わない丹沢の山中を抜けて、厚木から東名で 5 時半頃横浜帰って来た。

過去に羽芝氏が C L で当初プランの縦走をやっていたが、参加者の年齢構成等を考慮するとコース内容を変えていて賢明であったと思う。